



昨年末に開催した第 35 回でんでん虫クリスマス会は来場者・出演者・ボランティア・スタッフ総勢200名を越える盛大な会になりました。

クリスマス会は年々小さい子どもの参加が減り、お客様も出演者も年齢が上がってきています。外来療育を利用している子どもたちの放課後等デイサービスの利用が定着し、土日の過ごし方、放課後の過ごし方も変わってきているように思います。

それに代わって、最近は放課後等デイサービスやタイムケアなど、団体としての参加が増えてきています。今年は、「放課後等デ

サービスあおぞら」の利用者さんとスタッフが、総勢32名で参加してくださいました。

クリスマス会は、年間の行事のひとつではありますが、たくさんの事業所との横の連携を持つ「でんでん虫」の機能をもっと活かすために、①施設支援先同士の横のつながりをコーディネートすること ②回を重ねた施設支援先の利用者さんたちの、グループとしての取り組みの発表の場を提供すること、③法人内の情報交換、職員交流の場になること など、更に多面的な目的をもった会になったら良いなと思っています。



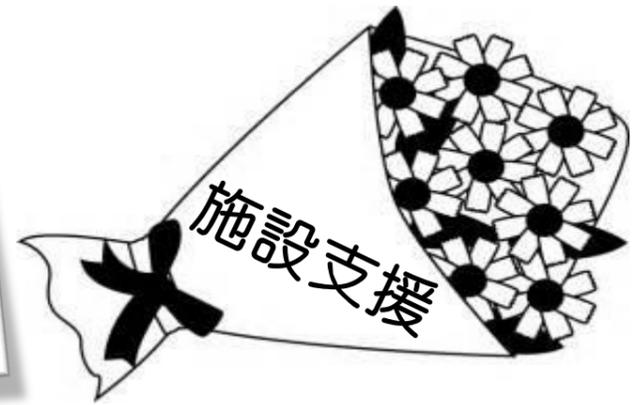
多摩川あゆ工房分場の、「みんなのお菓子屋さんレゼル」のクッキーと、夢花工房オリーブの作品は、サンタさんからのプレゼントとして、毎年お客さんに大好評です。

昨年の夢花工房オリーブの作品は手書きのかわいいきんちゃく袋でした。

クリスマス会の季節になると、法人内の他の部署に支えられていることを改めて実感します。

療育的な視点で関わる「でんでん虫」は一つ一つの活動が、その場にいる一人一人の豊かな日常につながっていくよう、精一杯取り組んでいきたいと思っています。

(吉野 紀子)



H28 年度、定期的な施設支援として、主に音楽療法を通じた関わりを、法人内事業所 10 か所、地域の事業所 15 か所、その他不定期に職員や保護者向け研修等を 11 か所の事業所で行いました。

特に、今年度新たに取り組みを始めた事業所の職員とは、極力その日の様子の振り返りを共有するよう努めました。このやり取りは、月に 1 回程度の関わりでも、日常生活の変化や仲間意識、期待感、意欲、持続力、気持ちを切り替える力や表情の変化まで共有し、次回の配慮につなげるとても有意義な時間になったと思います。

振り返りの中で気付いたことを少しご紹介します。

- ★ 集団の活動が苦手な方が、3分早く入室し、導入になるような個別の関わりをしたことでスムーズに楽しく参加出来た
- ★ 座る順番を工夫したり、対応する職員を変えてみたりすることで良い関係が生まれることがあった
- ★ 回を追うごとに集中度が増し、無意識的な動きが見られなくなってきた
- ★ 「明日はでんでん虫の音楽だ！」と毎回楽しみにしているのが良くわかる 等

今後もでんでん虫の療育的視点を活かし、地域での新たな連携に繋げて行きたいと思っています。

(渡邊 紀子)



皆さん思い思いの力を発揮しています！
この時間を楽しみにされている利用者の方も多いです。

スタッフさんも一緒に
楽しく取り組んでいます！





でんでん虫では、さぎ沼なごみ保育園開所と共に子育て支援センターページブルがオープンしてから常に、地域の子ども達や子育て中の保護者に「待たせない、断らない」という思いのもと様々なご相談や対応にページブルスタッフと共に連携して行ってきました。

子ども達の成長、発達に心配があったり、お子さんとの楽しい時間の向き合い方や、お子さんの様子に困っているなどの声は毎日たくさん寄せられていました。

子育てに不安やしんどさを感じている親御さんの悩みを家庭（特に母親一人）に任せてしまうのではなく、共に変化成長を喜び、成長の見通しを持って子育てに向かう力、子どもの育つ力を引き出すことの大切を親御さんとのように共有してゆくかを考えてきました。

そこでH28年度は、地域の子育て中の誰でもが気軽に訪れ相談にのってもらえる気軽さを活かして、でんでん虫とページブルの事業連携、スタッフとの連携をし、でんでん虫の音楽を用いた親子リズム活動「子育てセミナー」を毎月1回おこなってきました。

回を重ねる中、生活リズムが整わない、昼寝をしない、幼児になっても人見知りや強く緊張している、他者の話を聞かない、他の子よりもトラブルが多い、ジッとしていない、元気に遊ぼうとしない、食が細い・好き嫌いが激しい、言葉が遅い、健診で様子をみましょうと言われたがどのように見ればいいのか？うちの子の困った行動は障害なのか？これでは幼稚園に行けないのか？等々、様々な心配が寄せられました。

どの困り感にも子どもの育ちを支えるためには大人が意識的に関わり、心身の楽しさの共有から愛着形成、気持ちの折り合いをつける経験が大切です。そのきっかけを家庭（お母さん）だけに任せずそこに音楽リズムの有効さを活かし1時間足らずの時間でもたくさん動き、笑い親子共に意識的に活動する事を提案してきました。

大きな集団に入る前に親子で楽しさを共有し子どもの育つ力（エネルギー）をきちんと発揮させ、心配を抱え込むのではなく安心して次のステップに踏みあがれるようにと考えます。

継続してセミナーを行っていく間に、子ども達もプレ幼稚園から幼稚園、小学校入学へと成長していきました。セミナーで出会い子どもの成長に合わせて変化する心配や悩みにも継続的に相談にのる事ができ長い関わりをしている方も多くいます。



お父さんお母さんの高い高い♪♪

この活動を限られた方々だけではなく、更に広く関わりお伝えしていく場にし、またページブルスタッフと平常の自由来所時の受け止めや相談と連携をとり充実させていくために2016年度からページブルの事業としてお便りに「ページブル親子リズム」と案内をして行っています。毎月30組の親子と楽しくリズムを行いその中でのお子さんの変化を小さくても少しでもお母さん達と共有してフィードバックできればと思っています。また個別への対応だけでなく、全体に向けて「子育てのワンポイント」のような発信も行い、お母さん達にとってもコミュニケーションをとりながら生の情報を受け取れる場になるよう工夫をしていきたいと思っています。

(栗原 敦子)

【夏期プログラム】

☆リズム

お馴染みの療育スタッフと、歌ったり踊ったり、コンガを叩いたり、音楽を体感します。親御さんも一緒に参加する夏休みの定番イベントとなっています。

☆和太鼓

ホールいっぱいたくさんの和太鼓を並べると、それはそれは大迫力！お腹に響く振動にはじめはびっくりしてしまう子もいるけれど、それが和太鼓の醍醐味、くせになります。思いっきり打ち込んで発散し、体も心も気分爽快！

☆フラダンス

講師の柳沢先生が前に立つと、たちまちそこはハワイです。優雅な踊りと、歌に乗せられたメッセージを手話のようなフリで表現します。衣装もキメて♪アロ〜ハ〜♪



☆木工

講師の大前先生が毎年工夫を凝らして下さり、電動のこぎりや電気ドリルなどの本格的な道具を使って楽しい作品ができあがります。



【グループホーム見学会】



夏休みには、保護者向け学習会を企画し、グループホーム見学会となごみ福祉会の事業間連携についてお話を頂きました。18名の方に参加して頂き、保護者の方々の抱えていらっしゃるリアルな声も聞けました。なごみ福祉会では南生田・長沢エリアで男性ホームが8ホーム(42名)女性ホームが5ホーム(28名)、中野島エリアでは男性ホームが4ホーム(20名)女性ホームが1ホーム(4名)を運営しています。

グループホームは何かをできるようになる施設ではありません。利用者の方が自分らしく生活していただくことが一番だと考えます。できないことはスタッフが支援し、できることはそれぞれの利用者の方が自分で行います。入居に際しては、何かが出来なければ入れないといったことは一切ありません。

みなさん熱心に参加され、たくさんの質問が飛び交いました。実際に居室も見て頂き、年齢構成や支援区分、また家賃補助について等の説明を受けたい具体的なイメージが湧いたようでした。